

## 八戸と南部町の期日前投票所

# 「学生立会人」初登場

### 両選管 初の試み 若者の関心アップ狙い

## 知事選

23あおもり

若い世代の政治への関心を高めようとする新たな試みが20日、八戸市と南部町で始まった。両市町の選管が、6月4日投票の青森県知事選で、期日前投票の進行を見守る立会人に、初めて学生を起用。それぞれの投票所で職務に当たった学生は「面倒だと思っていた期日前投票の手続きが簡単にできることが分かった」などと語り、選挙を身近に感じた様子だった。【1ページに関連記事】

## 「手続き簡単」選挙身近に

20日に学生立会人を務めたのは、八戸工業大工学部システム情報工学コース3年の葛西雄大さん(20)と、八戸学院大健康医療学部看護学科3年の川村和さん(20)。葛西さんは八戸市庁で、川村さんは南部町いちよしホールで、それぞれ期

日前投票を見守った。投票立会人は、公選法で規定された非常勤の特別職公務員。投票所の開設から閉鎖までの手続き全般に立ち会い、職務上知り得た

事項には守秘義務が生じる。これまで選挙で投票した経験はなく、「選挙は遠い存在だった」という葛西さん。若年層の投票率の低さが問題になっているとは知っていたが、「実際に投票に来る若い人が少ない」と危機感を抱いたという。川村さんは、投票開始前の取材に対し、「立会人の仕事を通じて投票の雰囲気を感じられる。同世代が選挙に興味を持つきっかけになれば」と意欲。自身の投票については「候補者が掲げる政策を見比べてから行うつもり。若者の意見がどれくらい反映されるのかわいてみたい」と述べた。(田村祐子、佐々木祐紀)

期日前投票の立会人を務めた葛西雄大さん(上)と川村和さん=20日



投票立会人